

## 討議デモクラシーの源流と射程

早川誠（立正大学法学部）

mhykw@ris.ac.jp

### 1. いくつかの違和感

利益集積・選好集計型(aggregate)民主主義から討議(deliberative)民主主義への議論の移行

しかし、

#### (1) イラク介入と討議デモクラシー

戦時下でも賛否両派が討議を継続／事後的な討議の導きに（Gutmann and Thompson, 2004）

討議デモクラシー導入の意味は？リベラルの戦略としての意義は？

#### (2) 討議デモクラシーの目的

「第二の近代」への対応（篠原, 2004）

“The Persistence of Moral Disagreement” (Gutmann and Thompson, 1996)

近代の問題？ロールズ以後の政治理論の問題？

#### (3) 政治理論における位置づけ

Aggregate democracy に対する Deliberative democracy

Agonistic democracy(radical democracy)からの視点

何が理論的革新なのか？技術的革新による理論的ルネサンス？

### 2. *Democracy and Disagreement* を読む

討議デモクラシーの（アメリカ的？）理論として

#### (1) 討議デモクラシーの中核となる原則：互惠性・相互性(reciprocity)

社会的協調を行うための公正な条件の探求

道徳的不同意(moral disagreement)を解決する相互に受容可能な方法の発見

#### (2) 2つの民主主義論との対比

手続き型民主主義(Procedural Democracy)：多数決主義と少数派への配慮の結合。ダール等

立憲民主主義(Constitutional Democracy)：民主的過程を維持する以外の権利も。ロールズ等

\* Political Liberalism, Public Reason を論ずるロールズは評価

( 3 ) 討議デモクラシーの原理

Reciprocity : Prudence ( 私益、バーゲニング ) と Impartiality ( 普遍的、少数派抑圧 ) に対して

\* ハーバーマスの三つの規範的モデル(Habermas, 1996)

討議政治と、リベラル/リパブリカン・モデルとの対比

手続き型民主主義の位置づけの問題

公開性(Publicity) : public-spirited politics ではなく、common moral ground の発見

アカウンタビリティ : middle democracy の要素としての三権の説明責任

さらに、The Constitution of Deliberative Democracy

討議デモクラシーの conditions に加え、討議の content を制限する原理として

a)基本的自由 ( basic liberty ) : Personal Integrity が基準。見解の不一致は残る

b)機会均等原理 ( basic opportunity, fair opportunity ) : Preferential Hiring における見解の不一致

討議的不同意(Deliberative Disagreement)により、討議が要請される

3 . 討議デモクラシーをどう批判するのか

( 1 ) 法学的観点から

井上 : プロセス化としての熟議の民主政 ( 井上, 2003 )

しかし、政治への貢献度による、パターンリスティックな司法介入を招く

多数の専制・利益集団政治との区別を確保する公共的価値の必要性

Knight : “constitutional deliberative democracy” (Knight, 1999)

“the social and institutional preconditions of democratic deliberation”の必要性

= 立法権力 ( 立法府を含む ) と実体的価値 ( 司法府も関連する ) の関係、という問題設定

Gutmann と Thompson

「社会正義を確実にもたらす事ができるとは想定していない」

「民主主義の中に討議が根付かなければ、市民は多くの論争の余地のある手続きや憲法上の

権利を、一時的にでも相互に正当化することが出来ない、ということ」

法学的観点からの問題提起が解決しても、課題は残る

( 2 ) 政治学的観点

市民の社会的協調 / 市民の参加

・・・道徳的紛争 moral conflicts の顕著さ = 問題の質的相違 / moral conflicts の現実

#### 4．道徳的争点をめぐる議論

見せ掛けの Polarization(Fiorina, 2004)

“deeply divided” でなく “closely divided” なアメリカ像

多数派としての中道

大統領選における Moral Issues (Hillygus and Shields, 2005)

2004 年度大統領選挙における道徳的争点(Moral Issues)の非重要性

分断の原因としての候補者・政治家の態度変容とそれへの対策(Fiorina, 2002; Fiorina, 2004)

cf.) 2001 年ブッシュ減税で置き去りにされた中道派(Hacker and Pierson, 2005)

ゲリマンダリングによる現職優位 プライマリー段階での partisan への依拠

イデオロギー的争点の浮上とアマチュアの登場

政府介入の拡大による「新しい社会規制」

参加民主主義の活性化

一部の活発な活動家による民主制の「ハイジャック」

「選挙での投票率を高める」という処方箋の意味

#### 5．日本における討議デモクラシーをめぐって

なぜ、今、日本で、討議デモクラシーなのか？

ヒント

- ・ 70 年代からの発展？・・・討議デモクラシーなのか？
- ・ 国会における討議デモクラシー（福元, 2000）
- ・ 参加民主主義との関係（Schauer, 1999；毛利, 2002）

#### 6．まとめ

代議制民主主義の豊かさと討議デモクラシー

参考文献

- Dryzek, John S. 2000. *Deliberative Democracy and Beyond*. New York and Oxford: Oxford University Press.
- Fiorina, Morris P., Samuel J. Abrams and Jeremy C. Pope. 2004. *Culture War?* New York: Pearson Longman.
- Fiorina, Morris P. 2002. "Parties, Participation, and Representation in America: Old Theories Face New Realities." Ira Katznelson and Helen V. Milner (eds.), *Political Science: The State of the Discipline*, New York and London: W. W. Norton & Company, pp. 511-541.
- Gutmann, Amy, and Dennis Thompson. 1996. *Democracy and Disagreement*. Cambridge and London: Harvard University Press.
- Gutmann, Amy, and Dennis Thompson. 2004. *Why Deliberative Democracy?* Princeton and Oxford: Princeton University Press.
- Habermas, Jürgen. 1996. "Three Normative Models of Democracy." S. Benhabib (ed.), *Democracy and Difference*, Princeton University Press, pp. 21-30.
- Hacker, Jacob S., and Paul Pierson. 2005. "Abandoning the Middle: The Bush Tax Cuts and the Limits of Democratic Control." *Perspectives on Politics*, Vol. 3 No. 1, pp. 33-53.
- Hillygus, D. Sunshine, and Todd G. Shields. 2005. "Moral Issues and Voter Decision Making in the 2004 Presidential Election." *PS*, Volume XXXVIII Number 2, pp. 201-209.
- Knight, Jack. 1999. "Constitutionalism and Deliberative Democracy." Macedo(1999), pp. 159-169.
- Macedo, Stephen(ed.). 1999. *Deliberative Politics*. New York and Oxford: Oxford University Press.
- Schauer, Frederick. 1999. "Talking as a Decision Procedure." Macedo(1999), pp. 17-27.
- 井上達夫、2003、『法という企て』東京大学出版会
- 篠原一、2004、『市民の政治学』岩波新書
- 田村哲樹、2004、「熟議民主主義とベーシック・インカム」『早稲田政治経済学雑誌』第357号、38-62頁
- 長谷部恭男、2001、「討議民主主義とその敵対者たち」『法学協会雑誌』第118巻、第12号、1891-1910頁
- 福元健太郎、2000、『日本の国会政治』東京大学出版会
- 毛利透、2002、『民主政の規範理論』勁草書房